

# 札幌市介護保険事業計画推進委員会（第8期）

## 第1回市民調査部会 議事要旨

日 時：令和4年9月1日（木）午後2時～午後3時30分

場 所：カナモトホール（札幌市民ホール）2階第1会議室

### I 出席者

#### 1 委員

林副委員長（部会長）、平野委員、高橋委員、田中委員、河本委員、小林委員、柏委員、  
斉藤（浩）委員、額村委員、横山委員

#### 2 事務局

石崎高齢福祉課長、栗山介護保険課長、澤田認知症支援・介護予防担当課長、  
池田事業指導担当課長、足立企画係長、日和山給付・認定係長、遠藤企画調整担当係長、  
佐々木認知症支援担当係長、岩井中介護予防担当係長、高田主査（地域支援）

### II 議事次第

#### 1 開会

#### 2 議事

- (1) 部会長の選任について
- (2) 市民対象調査の項目の検討について

#### 3 閉会

### III 議事概要

#### 1 開会

栗山介護保険課長より委員の出欠状況について報告及び配付資料の確認

#### 2 議事

##### (1) 部会長の選任について

委員の互選により林副委員長を部会長に選出

##### (2) 市民対象調査の項目の検討について

○林部会長 これからは、私が議事次第に従って進めてまいります。

議題の「(2) 市民対象調査の項目の検討について」です。大変大量ですが、資料はほとんどそれに当たっております。まず、初めに、事務局からその説明をお願いいたします。

《遠藤企画調整担当係長より資料に沿って説明》

○林部会長 ありがとうございました。

資料をご自宅で読んできてくださっている方もいらっしゃると思うのですが、質問事項あるいはご意見を伺わせていただければと思います。いかがでしょうか。

○斉藤（浩）委員 市民委員の斉藤です。よろしく申し上げます。

まず、形式の問題ですが、住居の行政区の区分は前回のアンケートのほうが地域包括支援センターの分類にちゃんと線が引いてあって見やすいと思います。

それから、回答の仕方ですが、今回は、例えば、2ページ目などに単一、その他のページに複数など、ゴシックの太文字で書いてあるのですが、これは年寄りには分かりにくいです。前回のアンケートでは、当てはまる番号1つに丸をつけてください、もしくは、当てはまるもの全てに丸をつけてくださいという表記だったのですが、私はこちらのほうが分かりやすいと思います。

それから、9ページ目などですが、いわゆる注意書きや説明文というのが今回は全部下に来ているのです。たくさんの項目があって、それを説明するときは幾つか項目が重なりますから、別項で掲載というのはやむを得ない面があると思いますけれども、例えば、9ページの間4-3-(1)の「普段から介護予防」の横に注釈の4というのがついていますよね。この4も見えづらいというものもあるのですが、これは3年前の前回のアンケートのときには、設問の本文の中に介護予防についての説明がちゃんと入っていました。お年寄り等にとっては、本文に説明文が可能な限り入っているほうが別項での注釈を探すより分かりやすいと思います。特に、4つも5つも下に注釈が出てくるのは非常に分かりづらいと思います。

それと、13ページの間5-4に歯の質問があるのですが、設問の数を増やしたりするのは国等の調査の関係でなかなか難しい面はあると思うのですが、私は、ここの流れの中で、ぜひ難聴についての質問項目を設けていただきたいのです。これは、多くの方もご存じのように、現在は難聴というのは認知症の大きなリスクファクターというふうにいるいろいろな学会でも言われておりますので、それを調べて、難聴があるかないか、その度合いはどうか、補聴器を使っているのか、使っている場合はその頻度、使っていない場合はその理由を調査できると認知症予防という観点ではよいのではないかとというのが私の考えです。

それから、17ページの間5の孤立の問題で、これはできればということなのですが、よく貧困調査のときに正月三が日を一緒に過ごす人がいますかという調査があるのですよ。正月三が日を誰とも過ごさない人は、やはり概念として孤立した貧困状態と受け取られるのです。孤立を調べるためにそういう項目を追加できないかということです。

それから、20ページの間6-5の介護保険料ですが、これは要介護（支援）認定者意向調査の16ページにも同じ間いがあるのですが、サービスを充実すると保険料が上がりますよという表記になっているのです。現状では確かにそうですけれども、これは介護保険制度の構造的な問題であって、これは利用者や被保険者の責任ではないのです。でも、このような書き方をすると、いかにも利用者がサービスを使うと保険料が上がるぞとか、施設をつくと保険料が上がるぞと、財政的にサービスを自粛しなさいというふうになんか暗に言っているようで、妥当ではないのです。設問の中で費用や財政のことを聞いているので、予断を持ち込むような設問の仕方、また、誘導的

な質問の仕方というのはするべきではないと思います。

それから、それと同様に、22ページの間7-4のおむつサービスでも、「事業維持のために介護保険料の負担増が見込まれています」と表記されています。これは、あたかも負担増やサービスの縮小、もしくは、利用の自粛を前提に述べているというふうにとられても仕方がないです。誘導的な質問です。だから、設問の中でやり方を聞いているのですから、これも予断を持ち込む、または、誘導的な設問にするべきではないと思います。

それから、26ページの間7-11です。これは孤立死について聞いているのですけれども、私が3年前の調査で非常に興味を持ったのは、64歳以下では、心配またはやや心配というのが44.6%、心配ないというのが27.7%、ところが、65歳以上では、心配が34.3%、心配ないが41.1%と、64歳以下と65歳以上では対照的な調査結果が出ているのですね。これはなぜなのかということは、なぜ心配なのか、もしくは、何で心配ではないのかという設問が何かあってもいいのではないかとと思います。

それから、避難問題は、要介護（支援）認定者意向調査のところで言います。

○林部会長 非常にたくさんのご指摘やご意見を本当にありがとうございます。

まずは、この書式についてというのが一番最初に出てまいりまして、それから、聞き方に関するものが1つ、そして、その後は、そういった質問以外にもこういう質問が欲しいというものと、この質問の仕方が妥当かどうかということのご意見というふうにとりまとめさせていただきます。

ほかの方たちのご意見も同じようにまとめることができますので、申し訳ないのですが、一番最初の書式に関して、同じように、フォーマットをこうしたほうがよいのではないかと、ここはおかしいのではないかとのご意見がありましたら、まず最初にそれをお願いしてもいいでしょうか。

では、私からですが、私も結構アンケートをつくって実施してまして、やり方というのは主催者によって違うと思うのですけれども、斉藤委員がおっしゃった中で、確かにそのとおりだなと思いましたが、この単一と複数という単語です。1つお選びくださいとか、該当するものは全てお選びくださいというものはよくありますし、しかも、質問ごとにコピーペーストしていけば簡単に原稿をつくれますので、そのようにしたほうがいいような気がいたします。やはり、単一、複数というのは、ほかのアンケートでも見たことがないというか、あまり慣れていない単語かなというふうに思います。

それから、私は、質問の聞き方のところで、ちょっと意外というか、そう聞くものなのかなと思いましたが、ジェンダーに配慮という見直し内容のところ、「男性」か「女性」かと聞いた後で「指定しない」というのがあるのですけれども、これも初めて見たものなので、驚いてしまいました。

今、いろいろなアンケートをしますと、必ず出てくるのが、男性、女性、その他で、そして4つ目に、答えたくない、なのです。男でも女でもない、でも、性別は第3のものである、と考えている人たちもおりますし、答えたくないという人は学生の中にも結構多いです。ですから、今では大学の学生に対するアンケートもそのような選択肢を設定しています。この3の「指定しな

い」というのは、回答者の全てを網羅することができない単語になっておりますので、ここは変えたほうがよいのではないかなと思ったりいたします。

ほかはいかがでしょうか。自分でもしこれをやった場合に、ここがちょっと引っかかるというところはございますでしょうか。

私どもは、この意識調査のほうのリストを見ているものですから、ここからは65歳以上というのは分かるのですがけれども、やはりこうやって1冊になっているものだと、次にどこへ行くのかの指示がものすごく明確になっていないと、お年寄りの方たちはちょっと困ってしまうかなというのがあります。ですから、ぜひ、お願いをする前に、これをおつくりになった方たちが何人か実際にやってみて、どこで手が止まるかを必ず確認をしていただければ、随分分かりやすいものになるのかなという気がいたします。

ほかに、何かありますか。

○田中委員 私もお二方のご意見と同じで、単一、複数という選択の記述自体がよく分からなかったということがあります。

あとは、矢印で指定しているところがありますよね。例えば、5ページ目の問2-4が矢印で囲まれていたり、次のページに飛んで、6ページから7ページに関して、多分、参加していないという方がここへということだと思えるのですが、高齢の方には分かりにくいかもしれないというふうに思いました。

○斉藤（浩）委員 記述の点で、もう1点です。

21ページは四角が5つあって記述になっていますけれども、これは私が読んだ範囲では文言を書けというふうに読めるのですが、前回のアンケートは番号を書いてくれとなっているのですよね。だから、番号を記載してくださいのほうがよっぽど分かりやすいのではないかと思いますので、言っておきます。

○林部会長 ご指摘は、問7-2のほうですね。

○斉藤（浩）委員 そうです。記述となっておりますので、これだと文章を記述しなければいけないように受け取られるのです。

○林部会長 そうですね。これは、もしかしたら、選択肢32を選んだ人は「高齢者インフルエンザ予防接種」なんて書いてしまうかもしれませんから、ちゃんと問7-1の中の番号で示してくださいと書いてあげたほうが親切かもしれません。

そのように、実際にやってみて、手が止まったり、ここは負担だなと思うところを少し修正していただければと思います。よろしく願いいたします。

次に、先ほどの斉藤委員の指摘に、できましたら追加でこういうことを聞いてほしいというのがございました。例えば、難聴についてや、孤立について聞いてほしいということですが、いかがでしょうか。

ほかに皆さんから、いや、これはいらぬのではないかと、あるいは、こういうことも聞いてほしいというご意見はございますでしょうか。

○高橋委員 高橋です。

お聞きしたいのですけれども、先ほど斉藤委員から耳についてのご指摘がございまして、耳の記述が少ないのではないかと、例えば、耳の不自由さというのが衰えなどいろいろな部分に影響するという通説があるというようなご説明でした。

10ページの間4-5に大項目として幾つか項目が記載をされているのですけれども、例えば、筋力ですとか、もっと言うと足が細くなったというのも全てロコモなどに関係してくるわけですので、まず、大項目でその部分を上げて、耳については、さらに突っ込んだ内容が必要ということでしょうか。

○斉藤（浩）委員 最近の認知症の関連文書を読ませていただきますと、ランセット報告などの医学の分野で、難聴は認知症の非常に大きな要因になりますよということが繰り返し出てくるのですね。そういう意味では、高橋委員はご専門ですから、おっしゃったような、ほかの身体的なところも介護や認知症に影響するのはよく分かると思いますが、認知症とそれに関わる難聴が特にクローズアップされておりますので、ここは取り上げてもいいのではないかとというのが私の意見でございます。

○高橋委員 ありがとうございます。

○林部会長 ほかにいかがでしょうか。

全体的なことですが、例えば、私がアンケートをするときには、こんなに大量なものはやったことがございません。よく表紙に所要時間は10分ですなどと書いておくのですが、医療系の場合には30分もかかるようなアンケートに対しては大変失礼であると考えられるものですから、できるだけ少なくしていくわけです。

この一覧表を見まして、当然のことながら、国のニーズ調査であると書いてある●のところと、また、第8期の計画に掲載する○になっているところは聞かなければいけないと考えますが、国のニーズ調査にもなく、計画の掲載にも予定されていない質問項目がこんなにたくさんある理由がよく分からないので、そのことについてお教えいただければと思います。

○事務局（遠藤企画調整担当係長） 今、林部会長からご指摘いただきました件ですが、資料のつくりについて、十分にご説明が至らなかったところがございますが、計画に掲載しているものが少ないからといって、施策に直結しないというわけではございません。いずれも、各担当が今後の事業展開の上で必要な情報としてお聞きしたい、そして、これまでもお聞きしている情報と考えておりますので、その点については、当然、必要な項目ということで考えております。

○林部会長 というお返事なわけですけれども、そうしますと、やはりこれ以上増やすのはどうなのかなというのが私から斉藤委員への意見ですが、いかがでしょうか。

さらに2項目を増やす、しかも、その2項目に関しては、高橋委員がお聞きしましたように、認知症に関しての特段の項目を当てるべきものなのか、あるいは、孤立に関しては後ろのほうでも別の形で聞いておりますので、改めてこれ以上2問も設定する必要はないのではないかと、私個人としては答える方の負担が重くなるような気もするのですが、いかがでしょうか。

○斉藤（浩）委員 ほかの方のご意見はどうですか。

○林部会長 ほかの方もいかがでしょうか。

○田中委員 私も家族に80代、90代の独居の近いおじがいるのですけれども、全体的にボリュームが多くて、多分、1人では難しく、家族の介入が必要かなと思って拝見していました。ですから、もし可能であれば、もう少しボリュームが少ないといいなという印象は持っています。

○林部会長 ほかに、ご意見のある方はいかがでしょうか。

○斉藤（浩）委員 私は、提案です。

それで、項目が少ないに越したことはないですし、なるべく項目を少なく短時間で答えられるというのはあるのですけれども、そうすると、いろいろなことを1つ1つ検証しないと変になりますよね。例えば、たばこを吸っているかどうかは健康に関係あるけれども、本当に必要なかどうかとか、そういうことになってくるので、一般論で多いか少ないかだけでは片づけられないというのが私の意見です。

全体のバランスもあります。1項目増えたから過大な負荷がかかるかということ、私はそう思わないです。

ただ、私が高齢者とお付き合いの中で多く出る意見の中に、やはり、耳の聞こえが悪いということは、他人とのコミュニケーション、ひいては家族とのコミュニケーションが取れないために生返事をするということがあります。先ほど申し上げたように、理解ができないことで、大きな様々な結果につながるということと同時に、認知症の大きな原因になるということはかなり言われております。しかも、難聴と認知症の関係というのは3年前の調査以降に大きくクローズアップされてきた問題なのです。それで、このたびの機会にどうなるかということをお願いしたままで、絶対に増やせということではありません。そのことはぜひ理解してほしい、今回に限らず、今後の調査の検討にはぜひ入れてほしいということです。

○林部会長 事務局には申し訳ないのですが、そのようなことでよろしいでしょうか。今後、認知症に関しての調査等があったら、難聴に関しては必ず入れてほしいということで、今回はこのままにさせていただくということでよろしいでしょうか。

では、紙おむつと介護保険の負担の話について、誘導があるのではないかと、妥当な聞き方ではないと2つ指摘がございました。これが一番重要なご意見だったかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○高橋委員 先ほど斉藤委員からご説明がありましたとおり、介護保険に関する設問のご説明は、私も全く同感でございます。

特にこの中で介護保険の負担料について聞いている部分があって、例えば、所得の大きい人の負担を増やしたほうが良いという記述があるのですけれども、この設問で言うと、所得の少ない人を増やして多い人を減らすという回答はあり得ないわけですから、現状維持なのか増やすのか実質のところ考えられないわけです。介護保険のことだから仕方ないと思いますけれども、体とかその背景についての設問が続いている中で、ここでこの保険料の在り方という設問がどういう意味合いがあるのかというのはちょっと疑問に感じるころではありました。

○林部会長 これは問6ですので、先ほどの一覧表を考えますと、国のニーズ調査や計画への掲載がないということは、逆に、施策にとって重要かと思ひ、この問6を設定されているのかなと

思うのですね。そうすると、さらに誘導のないようにしなければいけないという留意はとても妥当な指摘かなと思います。

ほかの方たちはいかがでしょうか。

○田中委員 私も特定の質問に対して理由が示されているので、やはりそちらに引かれるなど思っていましたので、同じ意見です。

○林部会長 平野委員はいかがでしょう。

○平野委員 確かに、この質問をして、回答によって何をどうしていくのかというか、今後その回答をどういうふうにするのだろうかとか疑問に思うところではありますし、やはり聞き方というのは慎重にしなければいけない設問かなとは思いました。

介護保険の関係については、問6-4で納め方の方法というのをわざわざ調査する必要があるのかなというところも疑問に思うところです。

○林部会長 ほかの方はいかがでしょうか。同じような意見でも、また違う意見でも全く構いません。

横山委員はいかがでしょう。

○横山委員 横山です。

斉藤委員のお話が高橋委員が同意しておりましたけれども、そのとおりでなというふうを考えております。

○林部会長 柏委員はいかがでしょう。

○柏委員 今まで出ていないところからの確認ですが、調査対象が65歳以上5,000人とあるのですけれども、恐らく調査に答える方は60代の方もいるでしょうし、場合によっては90代の方もいらっしゃると思うのですよね。その辺は本当に無作為でやるのか、ある程度年齢を意識してやるのですか。私は、65歳以上5,000人でいいと思いますが、やはり意識がかなり違ってくると思いますので、その中で無作為に抽出するというよりは、ある程度、年齢や年代を意識したような調査をしたほうが有効ではないかなと思いました。

それと、今回はかなり赤字の部分が増えておまして、ここの議論をする時間はないのかなと思うのですけれども、次回以降でいいので、増えた部分と、先ほど言ったような入れたほうがいいのではないかという議論をもう少しできればいいのかなと思いました。

その中で言うと、問3に4つほど、問3-1-(1)の⑨⑩⑪⑫を入れた意図は、分かる部分と分からない部分があるので、まとめられるところはまとめてもいいのかなと思いました。例えば、町内会、自治会が⑦にありますので、そうすると、⑪⑫辺りも網羅できるのかなというふうに思います。

それと、細かい部分で恐縮ですけれども、ここを答えるときに、「保育の手伝いなどの子育て支援」とありますが、これはやはり一般の方はピンとこないと思うのです。⑩⑪⑫と比較すると、具体例が来て相対的なことが来ているので、例えば、子育てサロンなどの子育て支援という表記のほうが答える方は答えやすいかなと思いました。

部会長もおっしゃっていましたが、本当に分量が多いものですから、どこまで答えてい

ただけるのか、心配ではありますが、大方はよろしいかと思えます。

○林部会長 時間が足りなくなってしまうので、今の会話以外のご意見があるようでしたら、後でご自身でメールか何か、あるいは、事務局のお願いに対応するという形でお送りいただいてもよろしいでしょうか。私は、今出た意見以外の意見も集めたほうがよいような気がいたします。特に選択肢の問題など、こうやってぱっと目を移すだけでもこの単語はちょっとなというのが結構ございます。ただ、ここで全てを出すのは時間がありませんので、後日、今回出なかった委員の方たちのご意見を集めていただくということでよろしいでしょうか。

ほかにご意見はありますか。

○河本委員 河本と申します。

大体、意見が集約されたかなと思えますが、私は、民生委員という立場から申しますと、65歳以上といいますと、現役の方も結構いらっしゃるんですね。今は高齢化社会の中で70歳を過ぎてもまだ現役で働いている方がいらっしゃいますので、現役の方に特化した質問があればいいのかなと思いました。中には、ボランティアに参加したいとか、町内会活動に参加したいという具体例もありましたけれども、もう少し掘り下げたものがあったらいいのかなと思いました。

それと、もう1つ、26ページの間7-11ですが、先ほど斉藤委員から質問がありましたけれども、「近年、孤立死が大きな問題となっています」とありまして、確かに、札幌市でも毎年孤立死は600人強いらっしゃいます。

今、私が申し上げました孤立死は、本当に身元不明の方の数字ですけれども、なぜ孤立死が起きているのかというのは、ここの中では1から6までの簡単な設問ですが、例えば、親族と連絡が取れないとか、親族がいるので心配ないなど、もう少し具体的な内容があればいいのかなと思いました。

○林部会長 小林委員はいかがでしょう。

○小林委員 今までの議論を聞いていた中で感じたのですけれども、選択肢が多過ぎるというのが第一印象であるのですよね。例えば、できる、できないというような単純化できるものについては、できるだけ選択肢を少なくするというようなことを考えていただきたいです。

それと、先ほど林部会長からお話があった間1-3は、これは非常にデリケートな問題ですよ。 「男性」「女性」「指定しない」とありますが、まさしく「指定しない」なんていうのは何だという話になると思います。これは入り口の部分ですから、ここで突っかかる方もいらっしゃると思いますので、部会長の意見もございますけれども、このところは問いの項目をもう少し工夫していただければと思います。

あとは、選択肢の中でも、例えば、13ページの間5で、「できるし、している」「できない」ということと、「できるけどしていない」とあります。もし、この「できるけどしていない」を選択した場合はどういうことが考えられるのかなと思ったのですけれども、ピンとこないのですよね。できる人はできるからやるわけで、できるけれども、わざわざしないなんていうことを考えられるのか、そんなようなこともあります。だから、この答えはこういうふうな結論を導くということを考えながら、きちんとここら辺を整理していただければと思います。



それと、質問項目が多いというのは、国の指定もありますし、経年で調査しなければならないものがありますので、これは致し方ないのかなと思います。ただ、新たに項目を設けるときは、できるだけどうして項目を設けなければいけないかという必然性をきちんと検証した中で設けていただければというふうに思っています。

○林部会長 額村委員はいかがでしょう。

○額村委員 全体的に送られてきた資料を拝見させていただいて、もし自分が回答する立場だったらどうだろうということで一度やってみたのですよね。

私は、年齢74歳で、今は施設のボランティアもさせていただいたりして、ちょっと物忘れとかはひどいけれども、まあ、そこそこ暮らしていけるかなといろいろな情報交換の中で感じています。その中でも、やはり、えっ、どうしてこんな質問が必要なのかなとか、自分でやっていて心にダメージを受けました。特に30ページですけれども、虐待のところはすごく衝撃だったのですよね。

ですから、いろいろな施策を考える上で大切な内容なのかなというふうにも感じるのですけれども、やはり、どうしてこういうことがこの段階で必要なのかなということはすごく感じました。

○林部会長 貴重なご意見をありがとうございます。

やっていただけたのですよね。私は、ざっと目を通しただけでここに来てしまって、気がつきませんでした。

確かに、問7-20-(2)の矢印で、見聞きしたことがあるか、自分が受けた、受けている、では、それはどんな虐待だったかと聞いているのですよね。問7だから、その他になっていますので、これは今までも聞いていたものではないですよね。今、確かに高齢者の虐待はすごく課題にはなっていますけれども、これは実際に本当に虐待を受けている人にこのようなアンケートで軽く聞かれるような内容ではないような気もしないではないのです。

例えば、自分は大学ですので、倫理規定がとても厳しくて、アンケートでも相手に対しては侵襲性があるのですよ。相手がそれをやることによって傷ついたり、悲しい記憶がよみがえったりすると、実はクレームを受けなければいけないのです。その対応窓口を設定してアンケートをしなければいけないというぐらい今は厳しい段階ですので、この虐待をというのにはちょっと考えものかなと思うのですが、いかがでしょう。

選択肢の中に性的虐待も入っているということを考えますと、そういうことを聞くためのものですよというなら分かるけれども、高齢社会に関する意識調査というタイトルの中でこれを知るのにはちょっと失礼な気がします。

問7-21のようなものは今の時代は仕方がないのかなと思うのですけれども、これがなぜここに入ってきたのか、気がつきませんでした。

事務局のほうではいかがでしょう。

○事務局(澤田認知症支援・介護予防担当課長) 認知症支援・介護予防担当課長の澤田でございます。高齢者虐待の担当の課長をしております。

皆様、貴重なご意見をありがとうございます。

問7-20-(1)、(2)につきましては、今回の新しい項目ではないのです。今までも高齢者の人権尊重というところで、高齢者虐待対応について、計画を策定する上での必要な項目として設定しております。

見聞きしたことがあるかにつきましても、どのくらい高齢者虐待のことが認知されているのか、周知されているのかというところを一般的な見地からお聞きするというところで、この高齢者の意識調査の中に入れさせていただいております。

この介護保険計画の中でも虐待対応を計画に入れておりますので、必要な項目として継続して掲載しております。

○林部会長 目的は、一般的に高齢者の虐待に関してみんながどれだけ認知しているかということを知りたいだけですね。

○事務局(澤田認知症支援・介護予防担当課長) 虐待に対しての認知度ということも聞くということと、一般的に、実際にそういうことを受けていらっしゃる方がどれくらいいらっしゃるのか、隠れた方々がもっといらっしゃるのではないかとということをお聞きしたいというところで、問7-20-(2)も設けさせていただいております。

つける方によっては衝撃的なお気持ちになるということも理解はできますけれども、今までは必要なものとして入れております。

実際に高齢者虐待の通報を受けたり対応した件数というのは区役所で把握しております。ですが、実際に声を上げられない方が本当にいるのか、どのくらいいらっしゃるのかということも一般的ところで把握したいということで、問7-20-(2)の受けたことがあるということをお聞きさせていただいております。

○林部会長 時代は私たちが考えるよりも非常に速く変化しております。このアンケートのやり方次第で、冗談ではなく、高齢者の人権は尊重されているのか、被害者の人権は尊重されているのかということに非常に厳しい視線がまさに今高まっている時代だと思っております。

毎年聞いているからこのままでというのはいかかなものかと思ひますし、特段のヒアリングをやったり、もう少し対象を考えてやっているなら分かるのですが、やはり、この中でこの回答を得ているというのがちょっと驚きました。これは無作為抽出ですから、本当に確かに代表性はあるのですが、でも、やはり、その中にたとえ0.1%でも本当に被害者がいるということを考えると、その人たちは傷つくかもしれませんがというのは、私はおかしいのではないかと個人的に思ひます。

今年からこの質問をやめてほしいという意見ですが、私も本当にそう思ひますので、少し検討していただければと思ひます。もっと別の形でこれをデータ化することはできないだろうかと思ひますので、そういう意見が出たということは記録しておいていただければと思ひます。

ほかに何かご意見はござひますか。

○田中委員 今の意見に関して、私もつい最近まで北海道抑制廃止研究会の会長をしていたり、高齢者虐待防止推進委員も長くしていたのですが、その中でも虐待に関してはいろいろなデータが出ていますこと、本当に詳細のことを知りたいということの意向も察するのですが、

実は救急現場では明らかになっているケースよりも物すごい数の虐待が出てきていることと、研究でも、身体拘束を含めて虐待を受けた方が後にもその意識をずっとお持ちいただいて、それが生活を左右しているということも出ています。

今、本当に倫理的な問題というのを丁寧に扱わなければいけない時代になってまいりました。この項目を聞いたことで基礎資料に何か変化が起きるのかということは私の立場からは存じ上げませんが、私も今のご意見と同じように、いま一度、質問項目に関しては、人を守るという見地から、もし可能であれば違う方法でというふうに思います。

○林部会長 本当に、よろしくお願いいたします。

では、次に、資料4及び資料5の要介護（支援）認定者意向調査について、事務局からご説明をお願いいたします。

#### 《遠藤企画調整担当係長より資料に沿って説明》

○林部会長 ありがとうございます。

それでは、この要介護（支援）認定者意向調査について、ご意見のある方はお願いいたします。

○斉藤（浩）委員 まず、記載方法ですけれども、9ページの間3-1-(5)や(7)の記載方法が、間3何とかがんとかのいずれかで、何と何に回答した方のみという表記が大変多いのですよね。それは別のところでもそうなのですが、これでは全然分かりません。例えば、間3-1-(7)の場合は、「間3-1-(6)で『3.』と回答した方のみ」とあるのですが、すぐ上なのだから、満足していないと回答した方のみと書いてくれたらいいのかなと思います。長くなるのは大変だと思うのだけれども、なるべく文章に入れてあげてください。こういうふうに回答された方のみですよと番号だけで言われると、いちいちページをめくって設問に戻らなければいけないので、少し大変です。

それから、介護保険料問題は、先ほど申し上げたように、誘導的な設問ですから、やめてほしいです。

12ページの間3-3-(2)は、「精神的に楽になった」というのは、前回の調査を見ても随分曖昧だなとか、意味がよく分からないのですよね。家族に対する気兼ねが減って精神的に楽になったということが多いと思うのだけれども、そうすれば3の回答と同じになるのですよね。だから、どういう選択肢なのかというのは、ここは迷いがちです。

それと、19ページの間6-5ですけれども、家族介護者の年齢で、今はヤングケアラーというのが社会的問題になっていますので、「20歳未満」をひとくくりではなく、例えば、小学生、中学生、高校生という選択肢は入れられないのかというのが私の提案です。

それから、22ページの間6-9の介護離職についてですけれども、回答の中に、介護のために離職、転職を現在考えているという選択肢があってもいいように思うので、これはどうでしょうかということですが。

最後は、避難場所の問題ですけれども、1つには、前回の意識調査もそうですが、ここで設問されているのは大雨、洪水ですが、地震は入らないのかという素朴な疑問と、それから、避難場所で、避難する場所はあるかという聞き方ですが、大雨、洪水の場合は、第一義的には避難所への避難ですよね。それが駄目な場合は家の2階へ行きなさいというのが今は言われていますけれ

ども、離れた子どもの家や知人の家なんかはとでも行けませんから、こういう聞き方をすると誤解を与えかねないなというのが心配です。避難して一定期間がたってから、ほかに2次避難できる場所があるかという意味なら分かります。

それと、避難のことを聞くのであれば、要介護者の避難なわけですから、要介護者としての避難が、避難場所への不安、避難の不安、それから、避難場所で要支援者、要介護者がそういう対応を受けられるのかどうかということに対する施設的な問題と人的な体制、そういうことが受けられるのかどうかという不安を聞いたほうがいいのではないかと私は思いました。

○林部会長 ほかの方はいかがでしょうか。1つ前の調査票と重なっていても全く構いませんので、もしご意見があったらお願いいたします。

もしないようでしたら、斉藤委員のご意見を基にまた進めさせていただきます。

まず、やはりフォーマットですけれども、確かに、道が分かれるところが多過ぎてしまって、ついていくのが大変かなという気がいたします。

例えば、ここに移動しなさいなんていう先の色を変えたり紙の色を変えたり、いろいろ工夫しないと、高齢者とは限らず、誰にとってもちょっとこれは複雑怪奇かなという気がいたします。今までも毎年この形でやっていたのならば、アンケートは、実を言うと、やり終わってしまうと何の配慮もなくなってしまうではないですか。でも、やり終わった後で、実はどうだったかという検証しなければいけないと思うのです。そうすると、もし前回もこの形だったならば、これはやる人が途中で絶対に嫌になってしまうなというのが分かる形かなと思います。

それがもう予想されていて、では、そのためにどんな工夫をこちらがしているかを相手がちゃんと感じられなかったら、アンケートの継続する意識というのはなくなってしまうので、迷いそうなところにちゃんとこうやって指示がある、ありがたいなと思いつのページというなら分かるのですけれども、ちょっとそれが足りないような気がいたしました。

それから、そういうことだったのと思ったのが、4ページまで行くと、「問1-8で『6.』『7.』『8.』『9.』と回答した方は、ここでアンケートは終了です」となっているのですけれども、だったら自分が今まで答えてきたこれは一体何だったのだろうかという気がするのですよ。

答えたその前にあるものが札幌市の施策にとって重要なデータになるなら参加したという気もしますけれども、その前にあるデータだけ参加させられても、何か意義があったかというような内容で、いきなり3ページからさようならになってしまうので、無作為抽出だから仕方がないのは分かるのですが、もっと何か工夫が必要かなと思ったりするのです。

無作為抽出だと、実は自分が対象とはしない人のデータも取らざるを得なくなります。でも、とても失礼なことになりますので、最初のうちにあなたは要りませんとはやらないのです。ちゃんとそのアンケートをやりながら、こういう答え方もあるのだなとか、何か勉強になるような設定をしてから、途中でありがとうございますという、一応やった感があるようにしておかないと失礼なような気がするのですけれども、いかがでしょうか。

6、7、8、9ということですから、病院、ホーム、介護施設に入所している人はここでさようならですよということかもしれませんが、今までそういうことにクレームは全然来なかったも

のなのでしょうか。

○事務局（栗山介護保険課長） 特にそうした統計は取っていないのですけれども、特にクレームは聞いておりません。

○斉藤（浩）委員 そもそも、面倒くさいと回答しないし、送らないですね。

○林部会長 例えば、自分の家の入所している人のところにこのアンケートが来たと、そして、当然、その人のものだから、本人ではないから開けないまま入院施設やホームに持って行って、札幌市からこんなものが来たからやってとお願いする、開けてみた、そうしたら3ページ目に入所している人たちはここでおしまいですとなっているのは、住所地のホームや病院に持っていった人にしても、いちいちクレームはつけてこないと思うのですけれども、何これと絶対に思うと思うのですよね。

とても変な言い方ですが、例えば、このアンケートの対象者は、病院とかこういうホームなどに入所している方たちではありませんので、もしあなたがこれに該当するようでしたら、このアンケートへのご協力は要りませんみたいなことを最初のページで書いておいてあげるべきではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

そして、この問1-8の質問は、1から5と10の6項目で聞いていくみたいにするべきではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局（栗山介護保険課長） いただきましたご意見を検討しながら、より答えやすく、相手にとって失礼ではないような形を検討してみたいと思います。

○平野委員 ちなみに、問1-5の9の「その他」も、ここでアンケート終了になるのですけれども、この「その他」ではどういった回答がされることを想定されているのでしょうか。

○事務局（栗山介護保険課長） ご本人の中で、例えば、要介護度がつきそうなのだけれども、自分では特に申請していない、不安があるけれども、申請していないなど、いろいろな感じ方がある方がいらっしやると思うのですよね。今、申請中など、そんなことも含めて書いていただくような形になるかと思えます。

○平野委員 これは、要介護の認定を受けている方への調査ではなかったでしたか。私が間違っておりますか。

○事務局（栗山介護保険課長） 区分変更の申請とか、いろいろな変化がございますけれども、そういったことについても記載される方もいらっしやるのかなというふうには思います。

○平野委員 介護度が分からない方はそのままアンケートを進むけれども、そういう方はアンケートが不要ということでしょうか。

○事務局（栗山介護保険課長） はい。

○平野委員 どう違うのかなと思ってしまいますけれども、分かりました。ありがとうございます。

○林部会長 本当に、問1-5の9を選ぶ人も、問1-8の6から9を選ぶ人も表紙で最初に断っておいたほうが良いような気がします。こんな初期のうちにさようならというのは、しかも、その人たちですら返信用の封筒を戻してくださいということですから、これはちょっとあれですね。

○小林委員 今のお話を聞いていて疑問に思ったのは、この調査の目的は何なのかなといったときに、先ほど6、7、8、9についてはさようならというのですけれども、その前段の部分というのは必要なのですよね。違いますか。

○事務局（栗山介護保険課長） 前段というのは、1から5までという意味でしょうか。

○小林委員 問1-1から問1-8まで行って、そして、その後は答えない方についてのデータも必要なのですよね。違いますか。

○事務局（栗山介護保険課長） 必要になるかと思います。

○小林委員 でしたら、例えば、部会長がおっしゃったように、前段で、6、7、8、9と回答した方については、ここまでですよということをあらかじめ記載しておけば、それでいいのではないかなと思いますし、その他の部分についてもちょっと難しいのかなと私は感じました。

これだけいろいろなものをてんこ盛りしていると、どうしても抜けてくる部分、あるいは、無駄な部分というのが出てくるので、ここで、なかなか細かいところについて、これはどうなのだ、ああなのだと議論しても時間ばかり取って困ると思います。ですから、今この部会で出た意見を基に、市と部会長で整理していただいて、そして、それをもう一度この部会にかけていただいたほうが時間的に節約になるのではないかと思います、いかがなものでしょうか。

○林部会長 そのとおりですね。それで、よろしいでしょうか。

例えば、問1-8の前に聞いた問1-6と問1-7は必要だからここで切るのだということになりますけれども、そのもう一個前の問1-5の「その他」を選んだ人をここで切るとなると、その上のデータの何が重要かが全然分からない気がいたします。もう少し、その部分を工夫いただければと思います。

○斉藤（浩）委員 私の考えとしては、部会長のおっしゃるとおりだと思うのですが、ただ、アンケートとしては有効回答数に影響しますので、やはり回答率が高いかどうかというところは簡単な項目でも返事をいただくということが統計上は必要になるのだらうと思います。

○林部会長 ちょっと、今、思考が停止してしまったのですが、問1-5まで答えて返送してくれた人も返送率に入れていくのですね。

○斉藤（浩）委員 有効回答になりますよね。返事がなかったのではなくて、ちゃんと回答が届いている中に入りますから、送った5,000件のうちの何千件が返ったかという回答率には反映するわけです。

○林部会長 でも、データをいただく対象ではなかった人までもその回収率に入れていくというのは意味がよく分からないなど。

○事務局（栗山介護保険課長） 問1-5の9番の「その他」の記載方法について、私が誤解をしている可能性がございます。持ち帰り精査いたしまして、回答しやすいような、誤解を受けないような形を検討したいと思います。

○林部会長 よろしくお願ひします。

そうしましたら、ほかのご指摘は何かございますでしょうか。

斉藤委員から幾つかご意見が出ましたけれども、ほかにこういう部分、こういう聞き方、ある

いは、この質問はいかなものだろうかというものがございましたら、お願いいたします。

例えば、ヤングケアラーについてというのが出てきましたけれども、これは「20歳未満」で切っているのですが、無作為抽出するときに、年齢に関係なく全数から無作為するのですでしたか。

○斉藤（浩）委員 これは要支援者ですから、要支援者のところに行くのです。つまり、介護している人ですから、いろいろな人がいるのです。

○林部会長 主なあなたの介護者が何歳かを聞いているのですね。

○斉藤（浩）委員 介護している方が答えてもいいわけです。

○林部会長 そうすると、ヤングケアラーがやっている場合もあるということですね。

○斉藤（浩）委員 そうです。小学生がやっている場合もあるので、その子が答えられる、もしくは、お兄ちゃん、お姉ちゃん、母親が答えるのもいいのです。

○林部会長 柏委員、どうぞ。

○柏委員 2点ほどあって、先ほどの調査対象の話ですが、これはできれば施設入所や病院に入院していない方に聞きたいのであれば、今現在どうしているのかというのは厳密には分からないと思うのですけれども、恐らく認定などで分かると思うので、なるべく在宅でサービスを利用している方に送付ができないのかというのは1点思いました。

それと、これも最終的に札幌市と部会長にお任せしたいと思いますが、問2-5と問2-6については、私も社協職員でこういう質問や調査はするのですけれども、やはり要介護の方にインフォーマルを聞くのがかなり難しいと思うのですよね。それも「介護（予防）サービス以外の支援・サービス」と注釈がありますが、これはなかなか理解が難しいと思います。聞きたい趣旨は重々分かっておりますけれども、もう少し分かりやすいといいますか、説明を加えたほうがよろしいかなと思います。

○林部会長 額村委員は、こちらのほうもやってみたでしょうか。

○額村委員 このところは専門的な用語が入ったので、戸惑ってしまったというか、無視してしまいました。

○林部会長 当事者になると、こういう単語は分かるものなのですか。

○斉藤（浩）委員 これは、介護者が答えるほうがいいと思うのです。実際に重度の方や認知症の方は答えられないです。

○林部会長 そうしますと、このインフォーマルサービスだけではなくて、見ていくと、多分、初めて見たという単語も多いと思うのですね。そういうものに対して、いちいち欄外で説明を書くとなると、またそれもすごい話だし、どうしたらいいのでしょうか。

よく専門的なもののアンケートでは、ちょっと難しい単語かなという別紙で用語の説明なんていうのがあったりしますが、それを片手に持ちながらやってもらうのもまた大変ですし、どうしたものか。

でも、今までこれらをやって、介護は今回が初めてですけれども、分かりにくかったという意見というのは来なかったのですよね。

○事務局（栗山介護保険課長） 昨年までの状況ですが、どういうふうなお問合せがあったかと

いうところは今は分かりかねますが、そういう情報がないということになります。

○斉藤（浩）委員 事務局の方にお聞きしますけれども、前回の調査でも、こういう高齢者を対象とした主な保健・福祉サービスという一覧表がついておりますけれども、こういった説明書きはアンケートに同封されるのですよね。

例えば、簡単なことを言えば、グループホームと言われてもそれが何なのか分からない方もたくさんいらっしゃるし、ここにそういう説明が載っていたりするので、これの少し丁寧版と一緒に入れていただくといいかなと思います。

○事務局（遠藤企画調整担当係長） 今回の資料にはつけておりませんが、今、斉藤委員からお話がありました別紙の介護サービスの概要といったものについては、今回もご用意しようと考えております。設問の中ではそのことに触れたものもございますけれども、本日は資料としてはご用意できておりません。申し訳ございません。

○林部会長 問3-1-(4)を見ると、多分、今、一般の人たちは、「看護小規模多機能型居宅介護」なんてと言われても何のことか全然分からないと思うのですよね。それに対して、全部に利用していないに丸をつけられてしまう可能性もありますので、やはりもう少し説明が必要かなというのはあるかもしれません。

横山委員はいかがでしょうか。

○横山委員 先ほどのところに戻って構いませんか。

最初の資料2の2番のところの間2-1に「ひとり暮らし」とありまして、その一番右側に「その他（具体的に）」とありますが、例えば、これは8050の問題なども含めて考えていこうとしている質問なのでしょうか。

それから、今、ひとり暮らしが大変増えてきて、なおかつ、深刻さを増しておりますけれども、それを取るときに、問5-26から問5-29の「そのような人はいない」というような質問でこの回答を狙っていると受け止めてよろしいでしょうか。

ひとり暮らしの深刻さといいますか、独居者の方々の生活の有り様といいますか、そのことを受け止めていくときの回答として、そこのところをそんなふうを受け止めていいのかどうか、聞かせていただきたいと思うのです。

○林部会長 事務局からはいかがでしょうか。

○事務局（遠藤企画調整担当係長） ひとり暮らしの方も含めて、先ほどもお話がありました心配事などを聞いてくれる人との関係を組み合わせながら分析していくということも、高齢者の方の状況を把握していく上で必要になってこようかと思っておりますので、今後、検討してまいりたいと思います。

○林部会長 検討していただくということですが、いかがでしょうか。

○横山委員 はい。

○林部会長 ほかにいかがでしょうか。

○河本委員 資料5の5ページの間2-1に、「あなたが要介護（支援）認定を受けたきっかけはどのようなことですか」とありまして、1から9まであるのですけれども、これは、まず、認定



を受ける前の件ですけれども、どこに相談をしたかということが意外と分かっているようで分からない方がいらっしやいます。

例えば、地域包括支援センターや地域の高齢者相談、保健師にいろいろ相談ということもありますけれども、問2-2ですと、「最初に要介護（支援）認定を受けたときと現在の要介護（支援）度に変化はありましたか」にいきなりなっているので、その辺にもう少し流れがあると分かりやすいのかなというふうに思います。

○林部会長 まず、どこに相談したかを聞いたほうがよい、それから、問2-1に行き、そして、問2-2に行くまでも何かやはり1つ聞いたほうがいいですか。

○河本委員 認定を受けるきっかけがありますよね。では、それをきっかけとして、心配なことが1から9までありますね、これをどこに相談したかというコーナーがあればいいのかなと思います。

○林部会長 分かりました。

事務局、例えば、問2-1から問2-2、問2-3という流れというのは、何か施策的な設定の積み上げの流れでこういう質問になっていくのでしょうか。

○事務局（栗山介護保険課長） まず、あなたが困っていたり不安に思うことをどこに相談していますかという問いなのですけれども、実は、高齢者の意識調査のほうに入れていたのです。

先ほどお話があったこの点については、既に要介護度を受けている人ということの流れの中で、最初にこんな質問になっているというような流れでございました。

○河本委員 ありがとうございます。

○林部会長 別なアンケートで聞いているのでということです。

ほかはいかがでしょうか。

○小林委員 細かい話ですけれども、4ページの間1-9の質問の項目の中で、配偶者の中にわざわざ「夫または妻」と書いてあるのですけれども、高齢者のほうの質問では「配偶者」という言い方で統一しているので、これはわざわざ夫または妻というのは必要ないのではないかと思います。

○林部会長 2つの対象が重なることはほとんどないと思うのですが、配偶者に一本化してほしいということですね。

○小林委員 ジェンダーの問題がいろいろあって、配偶者というのが夫なのか妻なのか、その規定も曖昧になってきていますよね。

○林部会長 通常は、最近やるのは配偶者の隣にパートナーとか書いておくのです。

○小林委員 ですから、パートナーでもいいです。突然、パートナーと書いたらびっくりするかもしれませんね。

○林部会長 では、全体を通して何かご意見はありますか。

○斉藤（浩）委員 資料の要望、事務局にお願いしたいものがありまして、例えば、高齢社会に関する意識調査の31ページの間7-23で、「個別避難支援計画の策定を進めるために、札幌市はどのような取組を行う必要がありますか」とあるけれども、そもそもこれが分からない人が多いと

思うのです。ネットで見ますと、ガイドブックや支援計画書みたいなのがありますので、できれば委員の方に資料として次回もしくは次の何かの資料送付のときに、全てと言いませんが、せめてガイドブックの全体版ぐらいは送っていただけないかなという要望です。

○林部会長 よろしく願いいたします。

ほかにありませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○林部会長 そうしましたら、時間も過ぎておりますので、議事はこれで終了させていただこうかと思えます。

次回の部会は、10月6日の15時からの開催を予定しております。

今回、皆様からいただいた意見を踏まえまして、アンケート調査内容を修正して、次回の部会でもう一度皆様に確認をいただきたいと思えます。

また、ここで言い足りなかったことを改めて事務局に皆さんからお聞きいただくという一手間が加わってしまうのですけれども、よろしく願いいたします。

それでは、議事を終了させていただきます。

### 3 閉会

林部会長より、第1回市民調査部会の閉会を宣言した。